



たまごはおなかの中でどのようにしてできるの

さいしょにできるのは、たまごの黄身

にわたりのたまごは、70～75センチメートルの長さの輸卵管の中につくられます。はじめ、卵巣(らんそう)で、黄身のもとがたくわえられたあと、次第に大きくなり、卵管に送られます。この卵管では黄身が送られてくると、約3時間かかって白身が黄身を包みこむようになってきます。そして、白身のまわりに約1時間30分かけて、うすいまくを作ります。

次に、卵殻腺部というところで、約20時間かけて、白身のまわりからを作るのです。からができたら、3～5分で卵をうみます。

かたいからは、氷がはるようになっていく

白身とからの間にあるうすいまくができたあと、このまくに、つぶつぶがたくさんつきます。そこへ、カルサイトという炭酸カルシウムが出てきて、つぶつぶとむすびつき、乳頭層を作ります。この上にたんぱく質のせんいがあみの目状に広がり、そこにカルサイトがまたくついて、たまごのからができていくのです。ちょうど水の表面を氷がはっていきのように、カルシウムのまくがかたまって、からを作っていくのです。(監修 今泉忠明)

